



志政会 相内 玲子 議員

新型コロナウイルス感染症に伴う本市における今後の対策や対応

問 今後の再流行に備え医療物資や医療器具は十分に確保されているのか。

答 市立稚内病院では、現状では、マスク7万4千枚、フェイスシールド4千200枚、防護服2万3千枚など、十分な備蓄量を確保していると考えている。また、人工呼吸器は5台保有しており、今後さらに2台を追加し、治療体制の強化を図る。

問 市立病院の入院受け入れ最大人数は。

答 市立稚内病院では、6階病棟を感染症専用病棟として病床を確保しており、6階全てを感染症専用とした場合には、最大で30人の受け入れが可能である。

問 こまどり病院をコロナウイルス専門病院として活用は出来ないのか。

答 こまどり病院で新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるためには、CTなどの医療機器の整備や、感染症に精通した医療スタッフの確保

が必須となる。また、感染症患者の受け入れは、指定感染症医療機関が対応するとされているため、感染拡大防止の観点から、現状、こまどり病院の利用は極めて困難と認識している。

問 医療従事者へのフォロワー体制はどうか。

答 医療従事者の手当の増額については、特殊勤務手当規程による日額290円の手当支給に加え、6階病棟で勤務する専任の看護師等には、新たに特別手当として、月額1万円の支給を行った。

フォロワー体制については、タブレット端末を活用して、感染症患者とWEB診療を行っている。また、6階病棟で勤務した看護師等で、家族への感染リスクを感じている職員に対しては、空き病室や医師住宅を宿泊先として提供や、延べ14日間の休暇を与えている。

みどりスポーツパークカーリング場

問 パシフィックアジアカーリング選手権のコロナウイルス対策はどのようになっているのか。

答 入館時の検温や換気の徹底、アクリル板の設置など、密集を避けるための対策を行い、状況によっては無観客での大会開催も想定している。

また、競技者の入国時にはPCR検査を受けるなど水際対策が行われており、安全な大会運営が出来るように世界カーリング連盟と現在協議を進めている。

問 学校事業での利用とあるが現時点での市内学校の利用状況は。

答 各学校におけるカーリングの利用状況については、すでに稚内北星学園大学や大谷高校、稚内高校、稚内中学校で授業として利用されている。

問 今後のカーリング場の利用促進についてはどう考えているのか。

答 今後の更なる利用促進として、教員を対象としたカーリング体験会の実施や、レクリエーション活動として利用する機会を増やし、教育活動に利用してもらえよう環境整備を行っていく。



医療体制を強化している市立病院



市民クラブ 中村 公博 議員

新型コロナウイルス後の災害対応について

問 感染生予防のため、避難所を増やし避難者を分散、災害規模や地域に応じた細かな避難情報、避難所ではパーティションの設置、トイレや着替え室などプライベート空間・男女別の空間の確保等も必要。これについての現状と今後の在り方についての考えは。

答 今、災害が発生した場合の避難所の開設として、より多くの避難所を開設して3密防止を図り、防災ラジオ・防災情報メール等を活用し、きめ細やかな情報発信と市民周知を充実させる。避難所の感染症対策とプライバシーの保護として、屋内テントや消毒液及びマスク、簡易トイレを備蓄しているが、今後も避難者や避難所の数に応じた、間仕切りやトイレ用テント、体温計や防護服についても、適切な数量の確保に努める。

問 ソーシャルディスタンス等の確保には、テレワークやリモートワークが必要。本部機能を市役所に置いて、現地対策本部等で分散すると共に、

普段の訓練も必要だが、今後の在り方は。

答 現地災害対策本部と災害対策本部を結び、リモートワークの必要性を認識しており、災害発生時に各関係機関の専門的知識や最新情報により、迅速な判断を下すためにも、3密回避などの感染防止対策を徹底したうえで、活動ができるよう準備している。平成30年度に、現地災害対策本部の設置及び、現地災害対策本部と、本庁舎の災害対策本部とを結びリモート会議の訓練を実施している。今後も、各種訓練を実施し、災害対応能力の向上に努める。

新型コロナウイルス対策としての非正規労働者への支援

問 コロナ禍による影響で、賃金の減少や仕事を失った非正規労働者の方々の中には、稚内から離れず親元で細々と暮らす若者もいると聞いている。また、働く母親は、子ども達に高等教育を、家族に少しでも豊かな生活をと頑張っている。是非、行政から手を差し伸べていただきたいと思うが市の考えは。

答 国の第二次補正予算において、休業中に賃金が支給されなかった中小企業の雇用保険の被保険者のほか、被保険者以外の方にも、雇用保険の被保険者に準じた給付がされる見通しで、まずは国の支援

制度を活用していく。

JR宗谷本線のアクションプランについて

問 市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、基本目標で、本市の魅力等を広く発信し、人と資金の流れをつくり、新たな魅力を発掘、観光客のニーズを捉えた取組を進め、交流人口の拡大を目指すとしており、抜海駅も観光資源として、活用していただきたいと思うが市の考えは。

答 抜海駅とその周辺に魅力を感じ、来訪する観光客等がいるのは承知しているが、駅が抜海市街地から離れており、住民にとって必ずしも利便性の高い交通機関になっていない。この問題は地域の皆さんが生活する上で、将来にわたる必要な、しかも利便性の高い交通手段を確保することを最優先させて、取り組んでいく。



JR抜海駅へ向かう「風っこそうや号」